

令和7年度 第2回 社会教育委員会議

2025年8月18日

これまでの次期推進計画に関する議論経過

2024年11月7日

令和6年度 第2回 北九州市社会教育委員会議



グループワーク「次期推進計画のキーワードを考える」

2025年2月10日

令和6年度 第3回 北九州市社会教育委員会議



グループワーク「社会教育・生涯学習を推進した未来を創造する」

2025年2月10日

第1回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議



次期推進計画の策定に向けた議論 計画の方向性、重視すべき点等

2025年5月16日

令和7年度 第1回 北九州市社会教育委員会議



次期推進計画（たたき台）に対する意見交換（グループワーク）

2025年7月7日

第2回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議



次期推進計画（たたき台）に関する議論

2025年8月18日

令和7年度 第2回 北九州市社会教育委員会議

次期推進計画（素案）に関する議論

2025,5,16 令和7年度 第1回社会教育委員会議での意見（全体）

全体への評価等

- 基本的に賛成、将来を見据えた理念的な計画である点を評価。
- 理念の明確化が良い、数字よりも方向性やビジョンを重視している点を評価。
- 北九州の未来像が伝わり、「明るく・楽しいまち」への期待がもてる。
- 15年の大きな枠組みは良いが、直近5年の取組の優先順位や具体像がやや不明確。

今後のポイント

- 「楽しい」「参加したい」と思わせる「学び」と「活動」づくり
- 5年単位の具体的化
- 市民センター・学習機会の多様化と柔軟化
- 人材育成と支援体制の強化（資格有無問わず）
- 市民へのわかりやすい広報と啓発（図解・動画等）

2025,5,16 令和7年度 第1回社会教育委員会議での意見（個別）

学びと活動の循環

- 学びで終わらず、活動にどうつなげるかがポイント。
- 学び→活動→他者の学び…といった「循環型」の仕組みが求められている。
- 特定の団体等に所属していない人も学び・活躍できる場づくりが必要。
- 学びを楽しく設計することが、参加意欲や継続性に直結。

生涯学習・社会教育人材

- 場をつなぎ、巻き込む人材（ファシリテーター等）の育成が求められる。
- 社会教育士の活用、有資格者の支援と活躍の場づくりが重要。
- 肩書きの有無にかかわらず、誰でも活躍できる仕組みの構築が必要。

学び場づくり

- 高齢化・固定化の傾向がある中、関心の薄い層へのアプローチが課題。
- 特に若年層・働き盛り世代が参加しやすい工夫が必要。
- 良質かつ「楽しい」プログラムの開発・検証が重要。
- 「学ばなければ」に囚われない、自由で楽しさ重視の企画が求められる。

地域コミュニティ

- 「自分ごと化」（参加者意識・当事者意識）を育むアプローチが必要。
- 多世代交流できる場づくりが求められる。
- デジタルの活用とリアルなつながりが必要。

2025,5,16 令和7年度 第1回社会教育委員会議での意見（個別）

市民センターの活用

- 来館できない人、入りにくい雰囲気への対策が必要。
- プログラムの時間帯や内容の工夫を、良質かつ「楽しい」プログラムの開発が重要。
- 市民センターだより等の情報発信に魅力と工夫を。
- 現場の努力の可視化、既に活動的な館長等の取組を共有・見える化が必要。

学校との連携

- 社会教育と学校の接近してきている、今後さらに連携深化を。
- コミュニティ・スクールについて、より多くの人への理解促進が必要。
- 学校が地域ハブ的役割を果たす必要性。子どもの教育環境の変化に対応するためにも重要。

計画の浸透と実行

- 市民への伝え方が重要。市民や地域にどう理解・共感され、実行につながるかが最大の課題。
- 分かりやすい表現が必要、イラスト・映像の活用やカタカナ語を控える。

2025,7,7 第2回 次期生涯学習推進計画策定に向けた有識者会議での意見

「学び」と「活動」の定義と関係性の不明確さ

- 「学びと活動」という言葉の具体性や定義が不明確。
- 循環や一体化、スパイラルなど様々な見方がある。
- 概念図も個人の範囲で完結しており、他者とのつながりや協働性を示すものに見直すことも必要ではないか。

ウェルビーイングと社会教育の役割

- 個人と社会のウェルビーイングの関係、社会教育が果たす「地域コミュニティの土壌を耕す役割」や「人間の本性に根差すコンパッション（共感）」といった視点からの整理が必要。
- ウェルビーイングは単なる状態ではなく、「良い存在になる」ことがウェルビーイングの本質であり、その視点の反映が必要ではないか。

参加の「楽しさ」とモチベーション

- 地域活動への参加を促すには「楽しさ」が必要。
- 「楽しさ」には「面白さ」だけでなく、「充実感」「達成感」が不可欠。
- 特に若者世代や参加意欲の低い層には、活動の面白さや個人の得意分野を活かした緩やかな関わりが重要。

多様性と包摂の視点の不足

- 世代、ジェンダー、障害、国籍など多様な人々を包摂する視点が薄い。
- 特に地域社会での「顔が見える関係性づくり」や、孤立している層へのアプローチが重要。

学校教育との連携不足

- コミュニティ・スクールや学校運営協議会など、学校教育との連携が弱い。
- 市民センターや社会教育の関係者が、地域や学校との接点として機能し、社会教育の価値を学校教育と連携して広げる必要がある。

【社会的背景】

- VUCAの時代の到来
- 人生100年時代の到来
- 地域コミュニティの衰退、課題の多様化・顕在化

【進行する社会課題】

- 低い幸福度
22か国中最下位（2025年ハーバード大学調査）
- 孤独・孤立化の進展
 - ・4～5割の人が孤独を感じる社会（人々のつながりに関する基礎調査）
 - ・2040年、単身世帯は約40%に
- 既存コミュニティの弱体化
自治会・町内会の加入率の低下（北九州市では30年で約40%減）、PTAの弱体化

【「学び」のニーズ】

- いつでも、どこでも、気軽に学びたい
生涯を通じて学び続けられる環境を
- 変化の激しい社会に対応していきたい
キャリアアップ、スキルアップのための学びの機会を
- 豊かな人生を送りたい
学びや健康づくり、多様な人とつながる機会を

【「学び」の現状】

- 身近に学ぶ機会・場がない
学習機会が充実していると感じているのは48.1%
- 学びたいけれど時間がない
学習していない理由の75.3%は「時間がない」
- 学んだ成果を生かす機会・場がない
学習成果を生かしているのは32.1%
- 学ぶ機会、学んだ成果を生かす機会に関する情報が少ない
生涯学習に関する情報を得ていると感じているのは36.4%

※R6市政モニターアンケートより

【目指す未来】

市民一人ひとりが「学び」や「活動」を通じて、
共に育ち、力を引き出しあい、
地域コミュニティの活力があふれるまち

【変革点】

生涯学習を身近に
「学び」と「活動」で幸せに
「知らない・誰か」のことを
「私たちごと」に

【次期計画のポイント】

- ①地域コミュニティビジョンと歩調を合わせた長期的な視点での策定
- ②企業、NPO、学生、社会教育士等の多様な力を生かした学びと活動の推進
- ③AIやオンラインを活用した生涯を通じて学び続けられる仕組みづくり

次期生涯学習 推進計画

【計画のコンセプト】

“学び”と“活動”による
関係作りを通じた
多様なコミュニティの醸成

「私たちごと」化を通じた
北九州市の未来を創る人材の育成

【計画の基本方針】

自分らしく、生き生きと
暮らすことができる
“学び”と“活動”の機会の
創出の推進

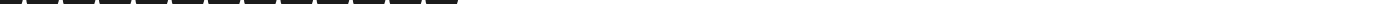
持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成

北九州市生涯学習ビジョン2025(案)

2025年8月18日

一人ひとりの“学び”と“活動”が作る北九州市の未来



令和8年●月

北九州市長 武内 和久

計画策定の趣旨

北九州市では、市民の学習活動を総合的に支援するため、これまで以下のような計画を策定してきました。

平成10年度	北九州市生涯学習推進構想
平成14年度～17年度	北九州市生涯学習推進計画
平成18年度～22年度	北九州市教育行政総合計画（いきいき学びプラン）
平成23年度～27年度	北九州市生涯学習推進計画
平成28年度～令和2年度	北九州市生涯学習推進計画＜“学びの環”推進プラン＞
令和3年度～7年度	北九州市生涯学習推進計画＜“学びと活動の環”推進プラン＞

「北九州市生涯学習推進計画＜“学びと活動の環”推進プラン＞」の策定から5年が経過することから、新たな生涯学習推進計画を策定するものです。

➤ 計画の位置づけ

「生涯学習推進計画」は、北九州市・新ビジョン（市の基本構想・基本計画）の部門計画の1つです。
加えて、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

➤ 計画の対象

対象範囲は、主に「社会教育」「家庭教育」分野です。

生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたって、あらゆる機会や場所で、自発的に学び続ける活動のことを意味します。

生涯学習の目的は、自己実現、社会参加、職業能力の向上、生活の質の向上など様々です。学習する場所も、家庭、学校、な職場、市民センター、図書館、オンライン講座などと多様です。

生涯学習には、知識や技能、態度などを身につける学習行為である「学び」の側面だけでなく、それらを生かして行動したり、人とかかわりを持つといった行動的な側面である「活動」が含まれます。

生涯学習の例としては、以下のようなものがあります。

- ◆本を読んだり、講座やセミナーに参加したり、オンライン動画を視聴する。
- ◆資格取得のための勉強をする。
- ◆健康づくりやスポーツ、レクレーションに参加する。
- ◆音楽や手芸、園芸などの趣味を楽しむ、その成果を発表する。
- ◆ボランティア活動や地域の活動に参加する。

生涯学習における「学び」と「活動」のサイクル

生涯学習の「学び」と「活動」は、それぞれが独立している場合もあれば、一連のサイクルとしてつながっている場合も多くあります。

一連のサイクルでは、次のように進んでいきます。

- ①「学び」を通じて、新しい知識・技能・価値観を習得します。
- ②学んだことを地域・仕事・生活といった様々な場で「活動」として実践します。
- ③「活動」を通じて、うまくいかなかったことや新たな知識の必要性といった「気づき」が生まれます。
- ①´「気づき」に基づき新たな「学び」へとつながり、新たな分野や視点で学習を深めます。
- ②´新たな「学び」を生かした「活動」に取り組みます。
- ③´新たな活動に基づく「気づき」が生まれ、次の「学び」へ繋がります。

「学び」と「活動」のサイクルを通じて、学習がより深まり、よりよい活動へと繋がります。

このサイクルを通じて、「学び」や「活動」は、一人ひとりの生活や地域コミュニティ、社会に活かされます。



次期計画の方向性

「北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫」期間中は、新型コロナによる市民生活への影響や生成AIの急速な普及等、生涯学習を取り巻く環境は予測困難な時代を迎えました。

このように予測困難な変化の激しい時代では、これまでの計画の個別の指標を設ける従来の計画では時代の変化への対応が困難です。

このような状況であるからこそ、次期推進計画では、羅針盤のように理念や大きな方向性を示す「北九州市生涯学習ビジョン2025」を以下の考え方に基づき策定します。

目指す未来へ向けた生涯学習行政の方向性を示す

「北九州市生涯学習ビジョン2025」を策定

- 2040年までのおおむね15年間（2026～2040年）を対象に、北九州市の未来へ向けた生涯学習行政の理念・方向性を示します。
- 理念・方向性を示した上で、本計画では15年間のうち最初の5年間の取り組みを中心に策定します。
- ビジョンは2040年までの15年間を対象としながらも、おおむね5年おきに見直しを図ります。

次期推進計画策定にあたって考慮すべき社会的背景

生涯学習・社会教育に関連する社会的背景

01

将来の予測が困難な VUCAの時代の到来

AI技術の進化や気候変動など、あらゆる物事が激しく変化し、複雑かつ曖昧な様子が続いて将来の予測が難しい時代を迎えています。

そのような社会では、一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要があります。

02

人生100年時代における ウェルビーイングの実現

人生100年時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要となる時代を迎えています。

長期的な視点でより良い人生を送るためには、心身の健康に加えて、社会的に良好な状態であることが欠かせません。そのためには、趣味やボランティア活動等を通じた人とのつながりづくりが重要となります。

03

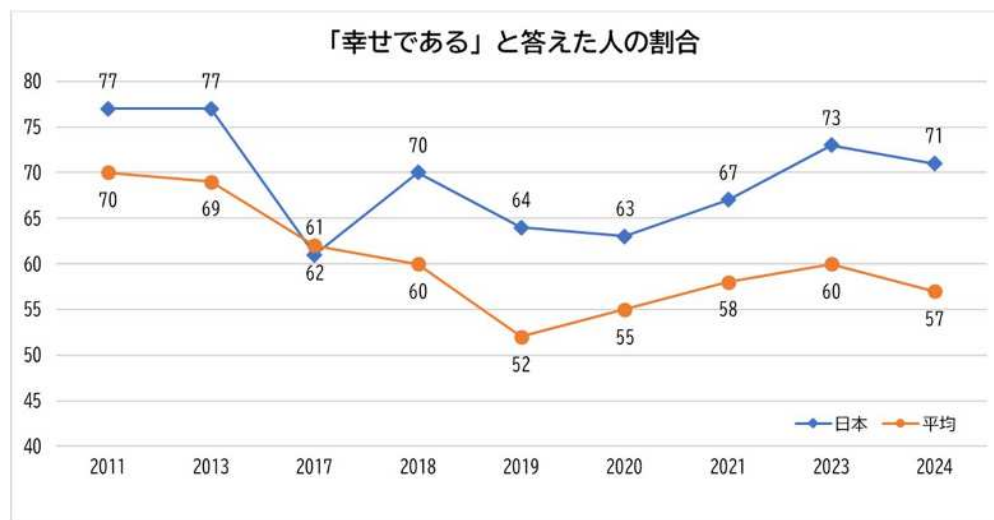
様々な社会変化を背景とする 地域課題の顕在化、 課題の多様化・複雑化

これまで地域社会を支えてきた地縁組織の弱体化により、地域コミュニティの希薄化が進行しています。

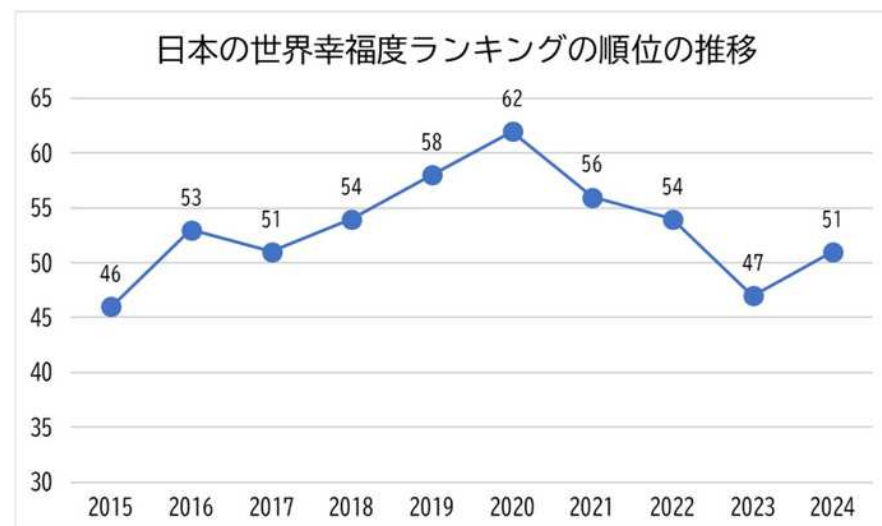
そのような中、多様化・複雑化する地域課題を解決、さらには課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要です。

01 低い幸福度

- 5年間の持続的幸福感を測ることを目的とした「グローバル幸福度調査」において、22の国と地域中、日本は最下位に。（2025年4月）
- 2025年版の世界幸福度レポートにおいて、147カ国・地域中、日本は55位。G7の中で最下位。



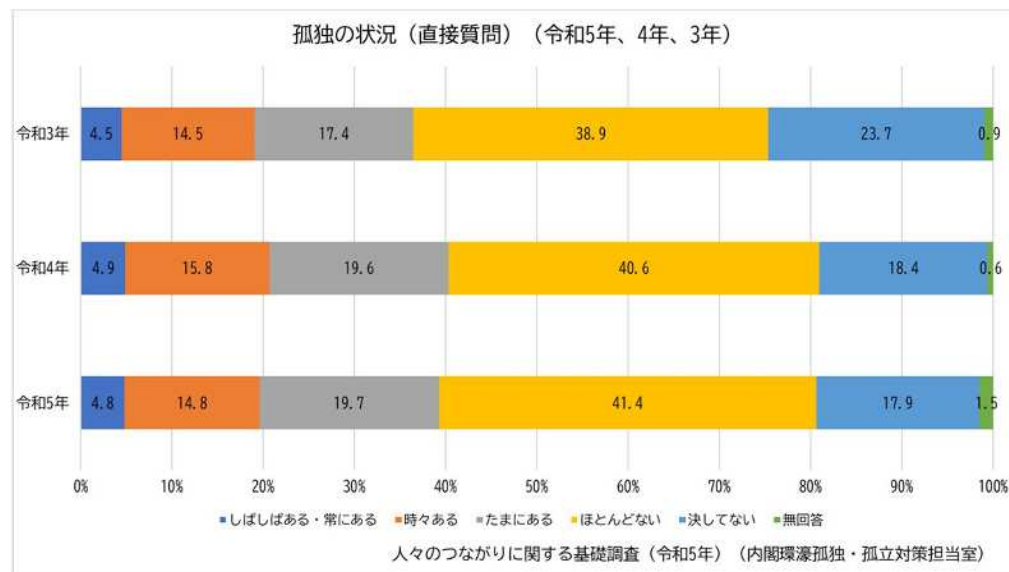
2024年イブスグローバル幸福度レポート



世界幸福度ランキング

02 孤独・孤立化の進展

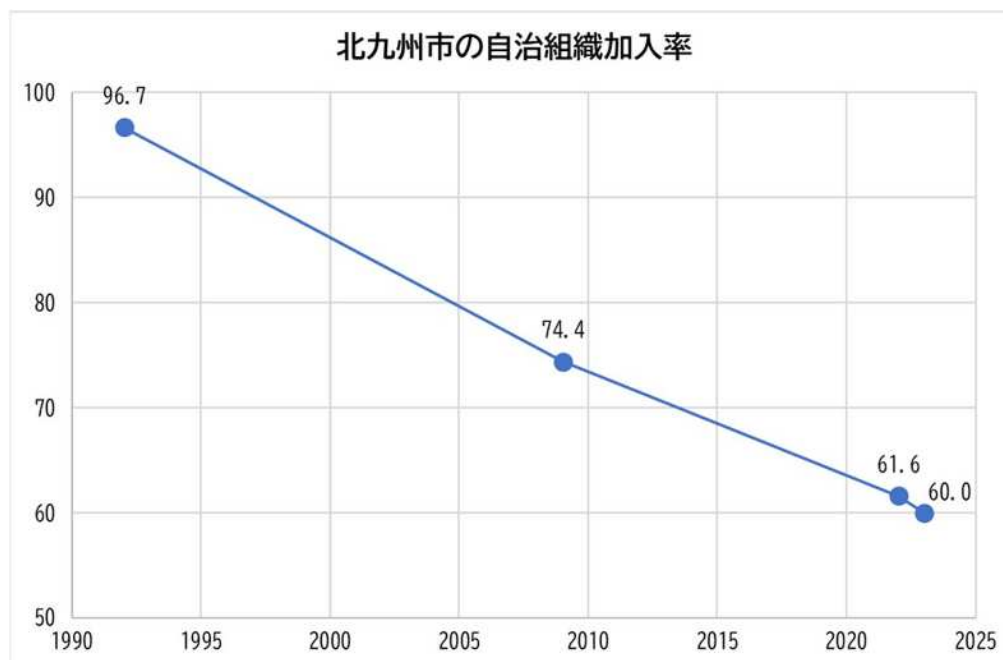
- 「人々のつながりに関する基礎調査」では、令和3年度の調査開始以来、孤独を感じている人の割合は4～5割程度。
- 2040年には単身世帯が43%、うち高齢者単身世帯が19%に。（国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」）



総務省統計局「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）（令和6年推計）」
※2020年まで実績値、2025年以降は推計値

03 既存コミュニティの弱体化

- 従来の自治会やPTAといった既存コミュニティの加入率の低下、組織数の減少。
(北九州市の自治会加入率は30年間で約40%の減少)



「学び」のニーズ

◆いつでも、どこでも、気軽に学びたい

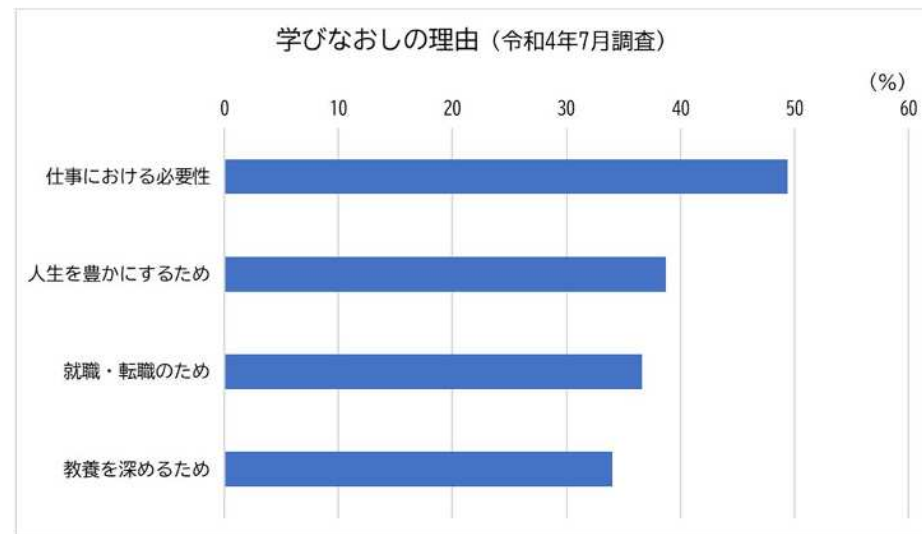
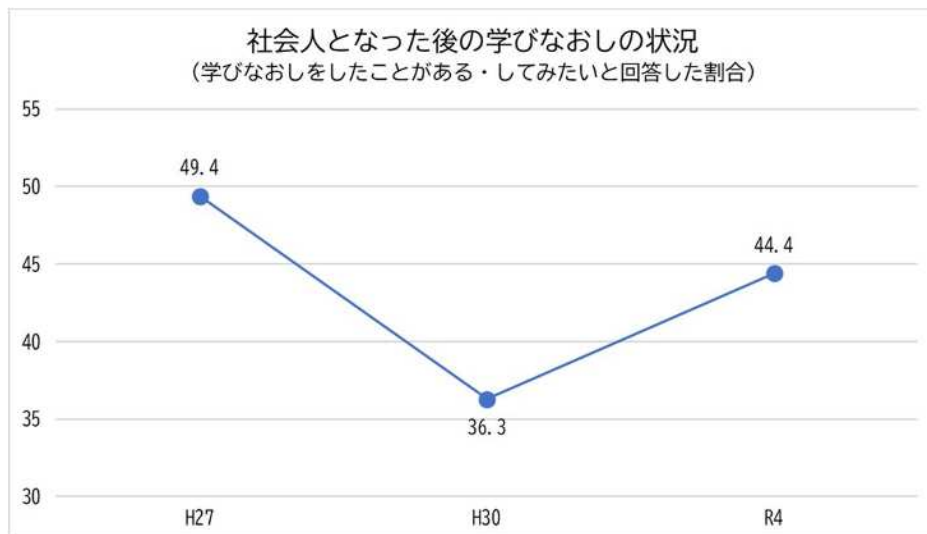
人生100年時代、多様なライフスタイルにも対応した、生涯を通じて学び続けられる環境が求められています。

◆変化の激しい社会に対応していきたい

不安定な社会情勢や急速な技術革新など、将来の予測が困難な時代を迎え、生活においても、ビジネスにおいても学び続ける。

◆豊かな人生を送りたい

人生100年時代を豊かに過ごすために、生涯学習を通じた学びや健康づくり、多様な人とのつながりが重要に。

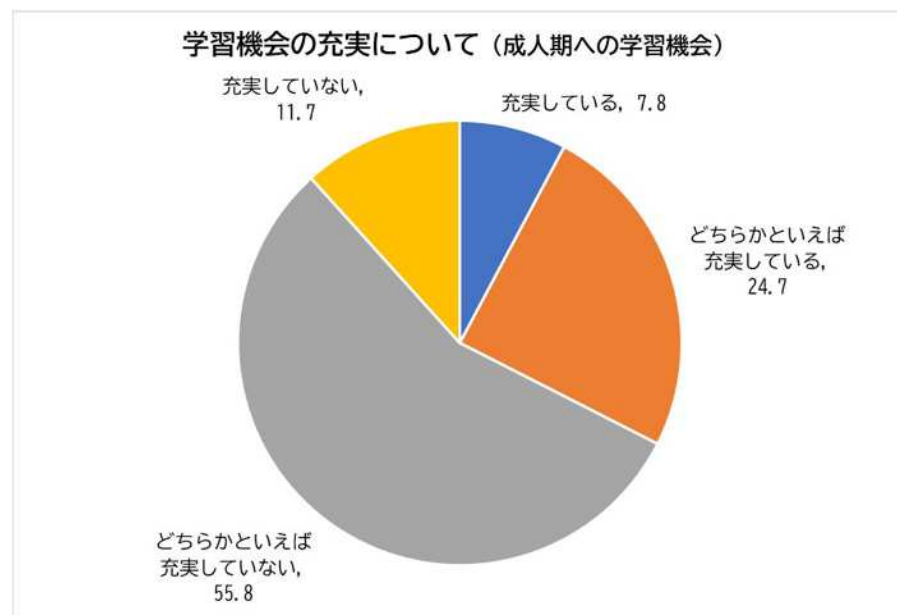


生涯学習に関する世論調査 (文部科学省)

「学び」の現状

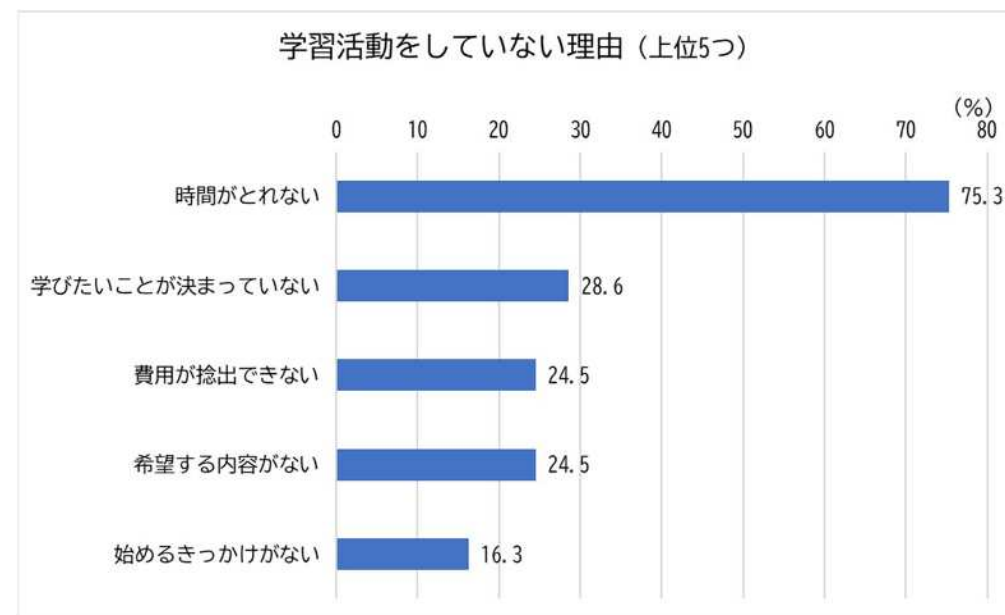
◆身近に学ぶ機会・場がない

学習機会が充実していると感じているのは32.5%。



◆学びたいけれど時間がない

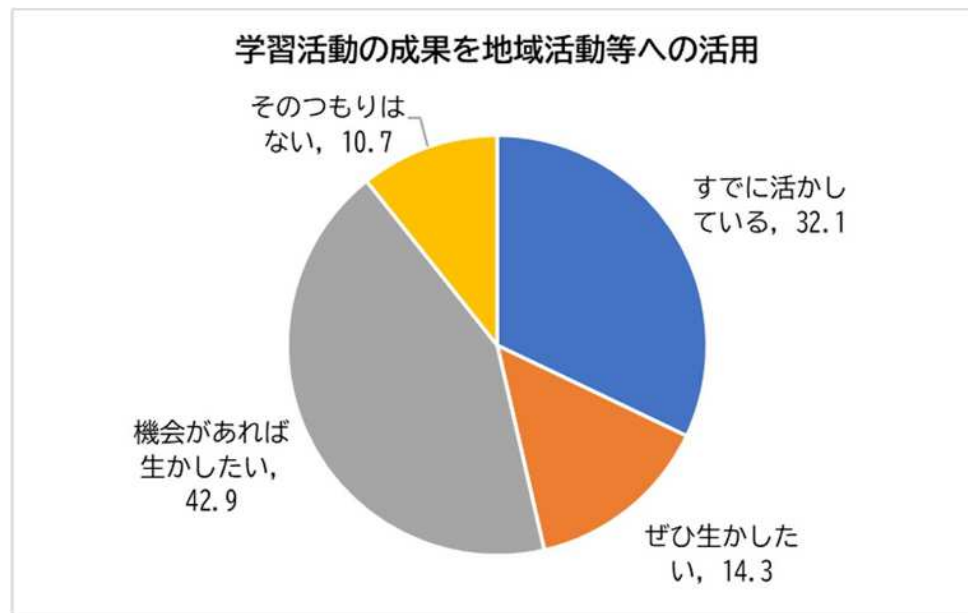
学習していない理由の75.3%は「時間がない」。



「学び」の現状

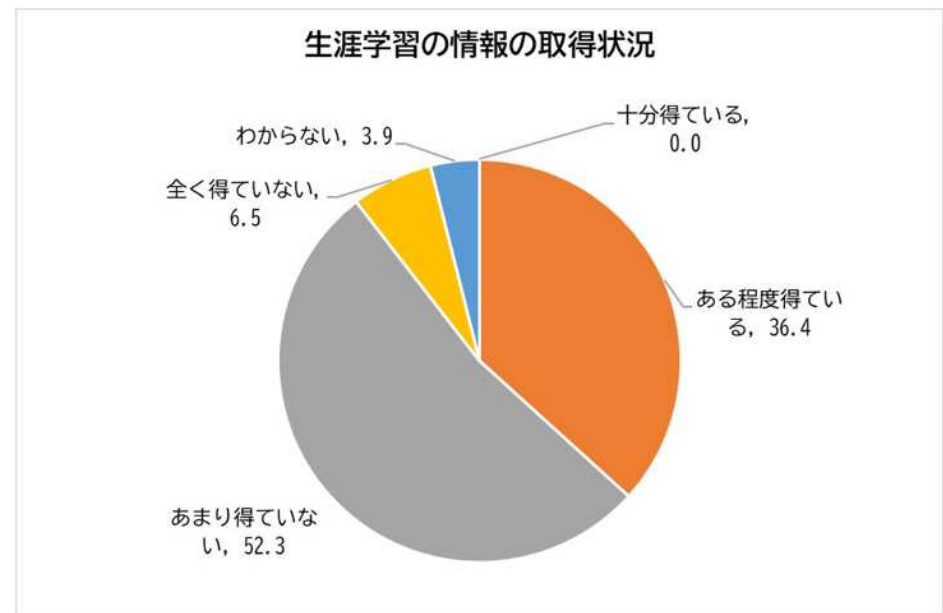
◆学んだ成果を生かす機会・場がない

学習成果を生かしているのは32.1%



◆学ぶ機会、学んだ成果を生かす機会に関する情報が少ない

生涯学習に関する情報を得ていると感じているのは36.4%



ビジョンが「目指すまちの未来」

**市民一人ひとりが「学び」や「活動」を通じて、
共に育ち、力を引き出しあい、
地域コミュニティの活力があふれるまち**

生涯学習を推進したまちは、市民一人ひとりが、健康で、生きがいを持ち、成長しています。誰かと一緒に学び、活動することを通じて、人や地域と豊かなつながりが生まれ、共に育ちながら、一人ひとりが持っている力が引き出されます。

生涯学習を通じた「学び」や「活動」、市民一人ひとりの変化が、つながりを通じて、地域コミュニティも活性化していきます。

生涯学習の推進を通じて、市民自らの手で、市民一人ひとりの力が発揮され、誰もが排除されることなく居場所を持てるまちとなります。

ビジョンが生み出す変革点

生涯学習を身近に

「学び」や「活動」で幸せに

「知らない・誰か」のことを「私たちごと」に

生涯学習を通じて、誰かと一緒に学び・活動することは、地域や社会を知り、他者とのつながりを生み出します。生涯学習を通じた「学び」や「活動」やつながりは、一人ひとりのコンパッション（Compassion・他者の苦しみや困難に共感し、それを和らげようとする思いやりの感情や行動）を育みます。

コンパッションは、これまでの「知らない」「誰か」のことが、私にも関係や責任がある「私たちごと」ことへと変化させ、地域や社会、他者へのかかわりを深めていきます。そのかかわりは、楽しさや喜びを生み出し、次の「学び」や「活動」の原動力となります。

生涯学習の機会をさらに身近なものにすることで、一人ひとりのコンパッションを育み、多様な「私たちごと」化が育つ土壌を作っていきます。

ビジョンのコンセプト

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた 多様なコミュニティの醸成

“学び”と“活動”による多様なつながりが、多様なコミュニティを醸成します。多様なコミュニティがあり、それらがつながっていくことで、持続可能な地域社会がささえられます。

地域における課題は、その解決だけでなく、課題を発生させない、発生した課題を早期発見できることが重要です。その基盤となるのは人とのかかわり・つながりであり、生涯学習・社会教育が大きな役割を果たします。

「私たちごと」化を通じた 北九州市の未来を創る人材の育成

“学び”や“活動”を通じて、何かを知り、誰かとつながることで、これまでの「知らない・誰か」のことは、コンパッションを育み、私にも関係や責任がある「私たちごと」へと変化します。

“学び”や“活動”を通じた「私たちごと」化は、個人のウェルビーイングだけでなく、社会のウェルビーイングを向上させ、北九州市の未来を創る人材が育成されます。

ビジョンのコンセプト①

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた多様なコミュニティの醸成

生涯学習を通じた“学び”や“活動”は、人が出会い、人とのかかわる機会を生み出し、多様なコミュニティを醸成していきます。

地縁という地域コミュニティの基盤となっていたつながりが弱まる中、多様なコミュニティが存在し、それらがつながることは、地域コミュニティを支える大きな力となります。

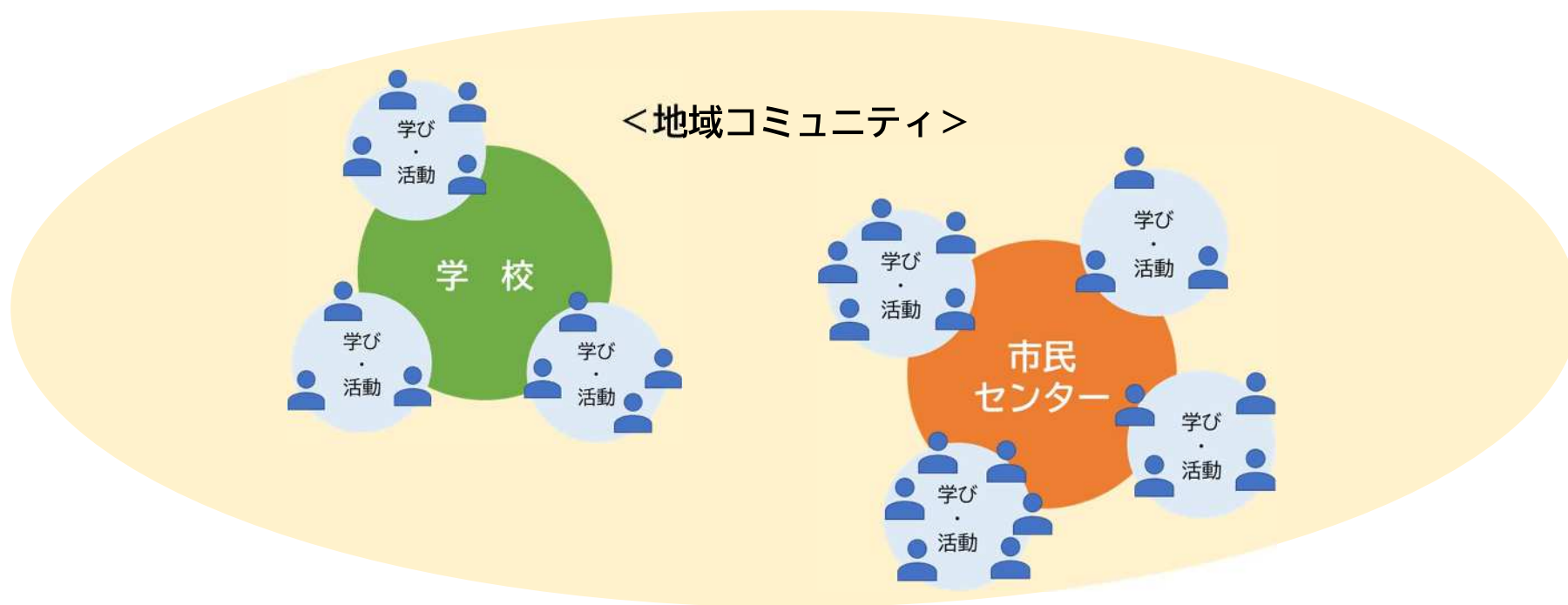
それらのつながりは、地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる「地域力」の基盤となります。

生涯学習は、これからの地域コミュニティの土壌を耕すという重要な役割を果たします。

※「コミュニティ」とは、特定の組織や活動団体を基盤にしたものではなく、人と人とのつながりの総体をさします。地域コミュニティは、ハブとなる施設（市民センターや学校）を起点として、小学校区エリアを想定しています。

ビジョンのコンセプト①

“学び”と“活動”による関係づくりを通じた多様なコミュニティの醸成

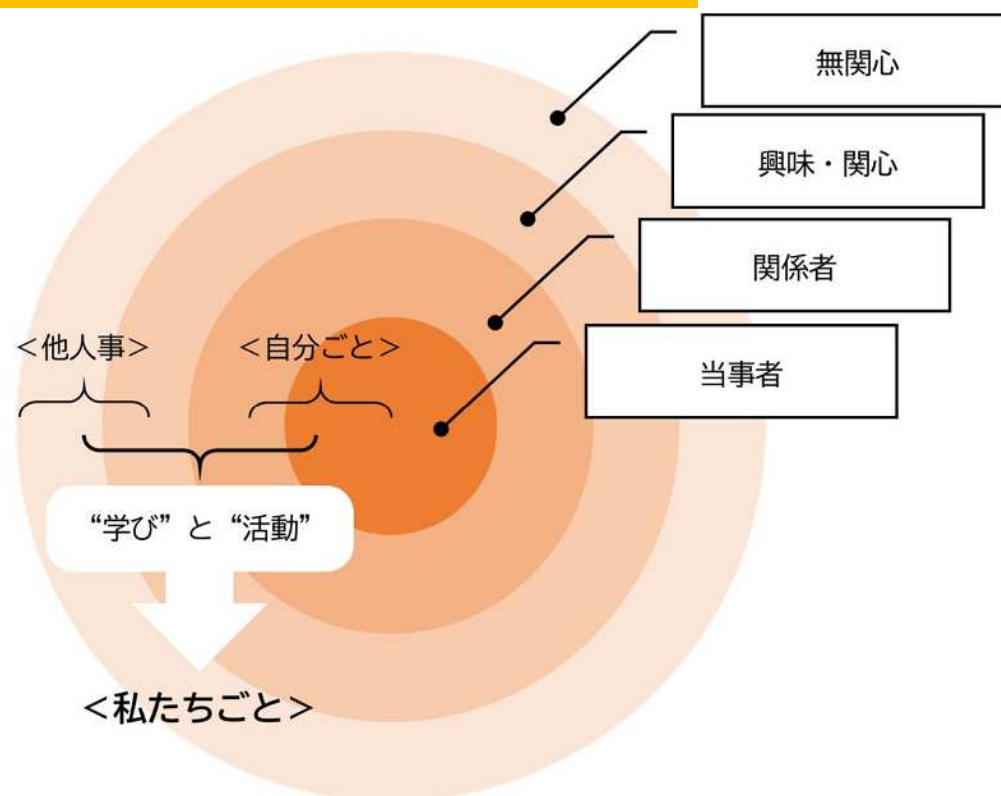


市民センターや学校は、多様なコミュニティが生まれる「人々のハブ（結節点）」となります。
そこでの“学び”や“活動”は、コミュニティの醸成に大きな役割を果たします。

ビジョンのコンセプト②

「私たちごと」化を通じた

北九州市の未来を創る人材の育成



生涯学習における“学び”や“活動”を通じて、何かを知り、誰かとつながることは、コンパッション（Compassion）（他者の苦しみや困難に共感し、それを和らげようとする思いやりの感情や行動）を育みます。

そして、「知らない」「誰か」のことが、私にも「関係・責任がある」こと、「私たちごと」へと変化します。

「私たちごと」化は、社会に関わり、参加することです。一人ひとりの「私たちごと」化は、一人ひとりの社会参加を促進し、北九州市の未来を創る人材へと変わっていきます。

ビジョンのコンセプト②

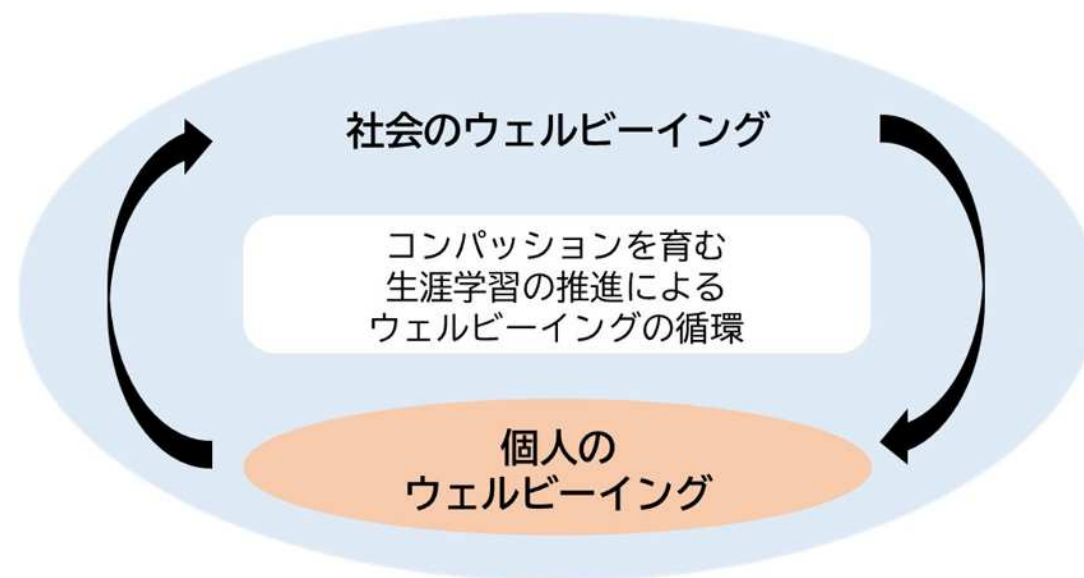
「私たちごと」化を通じた

北九州市の未来を創る人材の育成

生涯学習における“学び”や“活動”は、個人の好奇心を満たし、楽しみやつながりを生み出すことから、個人のウェルビーイングの向上につながります。

同時にコンパッションに基づく「私たちごと」化は、人や地域に関心を持ち、社会参加が促進され、社会のウェルビーイング（一人ひとりが安心して暮らせるより良い社会状態）も向上します。

個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングは密接に関係しています。お互いが良い影響を与え合い、双方が高まるような循環を生み出すことが重要です。そのためには、一人ひとりのコンパッションを育む生涯学習の推進が大きな役割を果たします。



ビジョンの3つの基本方針

“学び”と“活動”

自分らしく、生き生きと暮らすことができる
“学び”と“活動”の
機会の創出

市民一人ひとりが、自分らしく、生き生きと暮らしていくことができるように、多様な学びを提供する環境の整備とその学びを生かす場の創出に取り組みます。

地域づくり

持続可能な地域づくりに
向けた地域力の育成

地域づくり・人づくりの拠点である市民センターの様々な事業を通じて、“学び”と“活動”を通じたつながりづくり、地域コミュニティの醸成を図り、地域力の育成に取り組みます。

人づくり

未来の社会の創り手を
育て・支える人材の育成

地域の団体や人材との連携を図り、未来の社会の創り手の育成と、その創り手を支える人材育成に取り組みます。

ビジョンの基本方針①

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出

社会変化が激しく、将来の予測が困難な現在、生涯学習を通じた“学び”や“活動”は、自己実現や自己の成長の場となります。教養を身につけ、趣味を楽しむことは、生活の質を向上させます。“学び”と“活動”は、サイクルを通じて、時に一体的に進むことを通じて、学習がより深まり、よりよい活動へと繋がります。

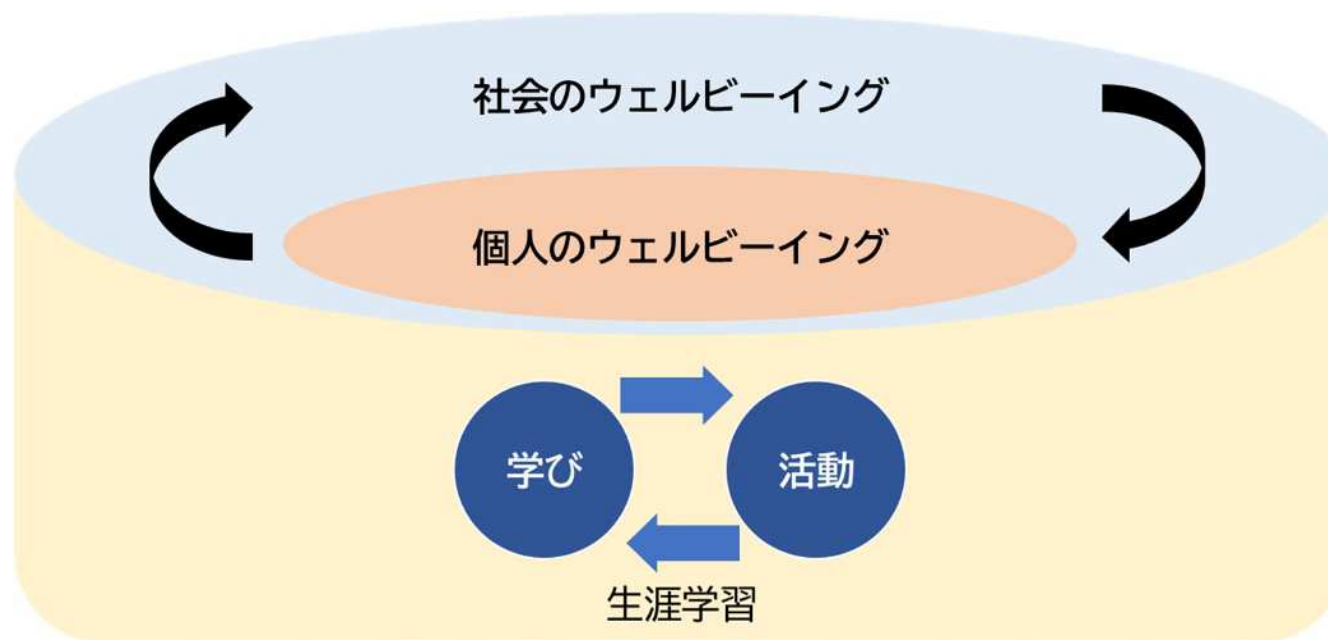
誰かと一緒に“学び”や“活動”を通じて、人との出会い、社会にかかわる機会となります。

多様な“学び”や“活動”の機会を得られることは、個人のウェルビーイングの向上の重要な要素であり、社会のウェルビーイングの向上にもつながります。

市民一人ひとりが、自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出するとともに、多様な“学び”や“活動”のための環境整備を進めます。

ビジョンの基本方針①

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出



生涯学習を通じた“学び”と“活動”は、個人のウェルビーイングの向上の重要な要素です。

個人と社会のウェルビーイングは影響しあいながら向上していきます。

生涯学習は、個人と社会のウェルビーイングが育つ土壌のような存在です。

基本方針①に基づく取り組み

自分らしく、生き生きと暮らすことができる“学び”と“活動”の機会の創出

<取組のキーワード>

ICTの活用、リスキリング、リカレント教育、学び合い・教え合い、ウェルビーイング、多様性、情報発信

<取 組>

◆ 多様な学びの場を提供するための環境の整備

- ・ ICTの活用による「いつでも・どこでも・だれでも」学びやすい環境の整備
- ・ 学びのニーズに合わせた柔軟な時間・場所による学び場づくり
- ・ 届けたい相手に合わせた情報発信のチャネルの多様化
- ・ 質の高い“学び”の提供のための人材育成
- ・ “学び”や“活動”の見える化、成果の共有

◆ “学び”を生かす“活動”の場の創出

- ・ “活動”へつなげるためのマッチングの強化
- ・ “活動”に関する情報発信の強化

【2026～2030年の重点的な取組】

- ICTの活用した学びの環境整備
- 学びの多様化、質の向上のための調査・研究、その成果に基づいた人材育成
- 成果の見える化と情報発信の強化
- 関係機関と連携した多様な学び機会の創出と情報の一元化

ビジョンの基本方針②

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成

持続可能な地域コミュニティの構築には、地域力（地域課題の解決だけでなく、課題を発生させない、課題を早期発見できる力）の育成が不可欠です。

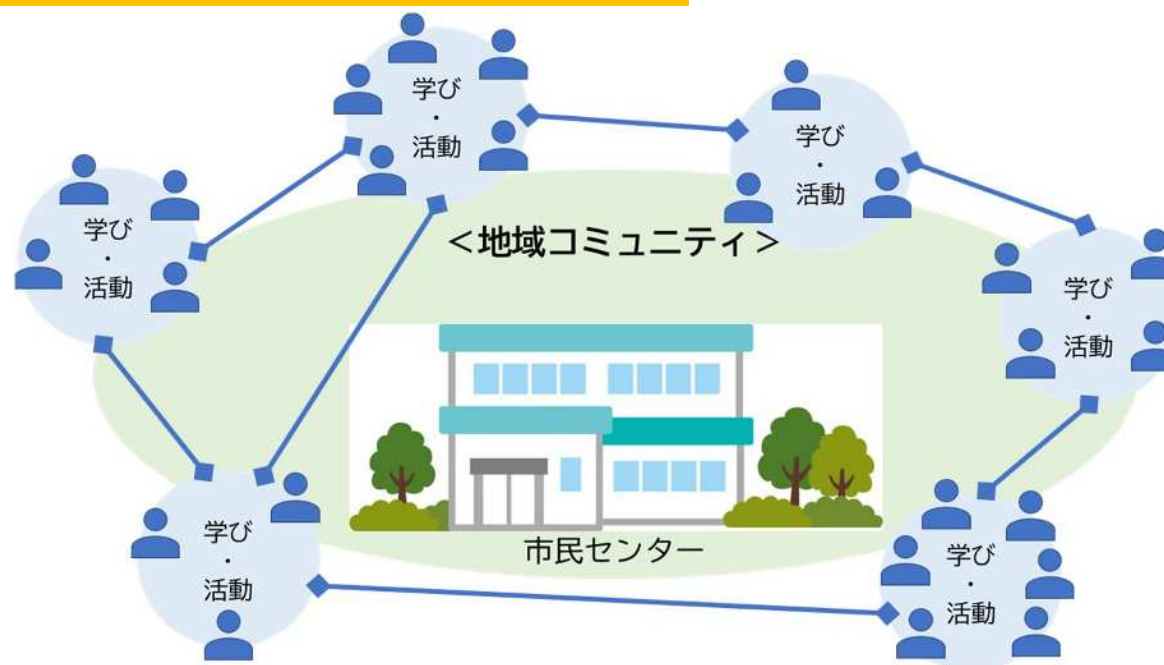
地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動の拠点である市民センターで実施される生涯学習事業や地域住民による生涯学習活動は、地域力の基盤となる多様なつながりを生み出します。

さらに、市民センターにおける“学び”と“活動”では、地域の人や歴史、文化といった身近な資源を活用することで、地域への愛着・誇りを育むとともに、一人ひとりの「私たちごと」化への最初の一步を促します。

※「コミュニティ」とは、特定の組織や活動団体を基盤にしたものではなく、人と人とのつながりの総体を指し、「地域コミュニティ」とは、おおむね小学校区のエリアを指します。（人々の結節点となる学校や市民センターが重要な役割を果たします。）

ビジョンの基本方針②

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成



市民センターでの「学び」と「活動」が生み出すつながりが、地域力の基盤となります。

基本方針②に基づく取り組み

持続可能な地域づくりに向けた地域力の育成

<取組のキーワード>

市民センター、こどもまんなか、多世代交流、ウェルビーイング、社会参加、実践、対話、
地域デビュー、社会関係資本※

※人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

<取 組>

- 地域づくり・人づくりのための市民センター事業の充実へ向けた支援体制の強化
- 地域の特性（強味・弱み）を生かした“学び”と“活動”の創出
- 市民センター事業への若者の関与の拡大
- 地域の人材育成の取り組み強化

【2026～2030年の重点的な取組】

- 市民センター事業の支援人材の育成・強化
- 若者が市民センターにかかわる仕組みづくり（制度化）
- 地域人材育成の講座等の整理・強化

ビジョンの基本方針③

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成

生涯学習を通じた “学び” や “活動” は、コンパッションに育み、「知らない」「誰か」のことが、私にも「関係・責任がある」こととして「私たちごと」化していきます。

一人ひとりが「私たちごと」化することで、自分が暮らすまちや社会に関心を持ち、現在と未来のまちや社会に責任を持ってかかわる未来の社会の創り手へと変化していきます。

未来の社会の創り手を育て、支えていくためには、行政だけでなく、社会教育団体や社会教育士、学校、NPOや企業等と連携し、“学び” や “活動” の機会を創出していくとともに、未来の社会の創り手を支える人材・仕組みを整えていきます。

ビジョンの基本方針③

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成



様々な主体と連携しながら、“学び”や“活動”を通じて未来の社会の創り手を生み出とともに、未来の社会の創り手を支える人材の育成と体制を構築します。

基本方針③に基づく取り組み

未来の社会の創り手を育て・支える人材の育成

<キーワード>

社会教育士、社会教育団体、ネットワーキング、支援組織、人材育成、多様な主体との連携、学校（コミュニティ・スクール）との連携

<取 組>

- 未来の社会の創り手を育成する多様な機会の創出
- 未来の社会の創り手を支える人材の育成
- 未来の社会の創り手を支える支援組織の設立
- “学び” と “活動” を支える関係団体や
社会教育士等の社会教育人材のネットワーク化
- コミュニティ・スクール、高等学校や大学との連携促進

【2026～2030年の重点的な取組】

- 社会教育団体や社会教育士等のネットワーク化
- 未来の社会の創り手の育成、支援人材の育成
- 大学連携の拡大